



## 濱口 功 高知支部 55期

かつて出身校の隣にあった施設にこうやって訪れる機会ができるなんて。すごく新鮮で、面白かったです。

今回は高知支部の濱口功選手に、中小企業を中心とした研究・技術支援を行っている「高知県工業技術センター」を訪問していただきました。実はかつて、出身校のすぐそばにあったというこの施設を見学されての感想や、高知支部についてのお話を伺いました。

# 競輪つてこんなこと やっっているんだ!!

高知の選手はみんな「いごっそう」なので。若手、ベテラン共々応援よろしくお願いします。

——まずは見学されての感想をお聞きしたいのですが、実は以前この施設は濱口選手の出身校のすぐ隣にあったそうですね。

「そうですねですよ。ただ僕は高知工業高校出身なんですけど、言われてみれば当時学校の横にちらつとあったかなというくらいで、どんな施設なのかは全然知らなくて。だから今日はすごく新鮮でしたし、面白かったですね。移転して、こんなに立派な施設として利用されている今、こうやって訪れる機会があるなんて巡り合わせの不思議というか。高知工業出身の選手は結構多いんですけど、僕ら競輪の補助金がこういうところに使われているのは、なんだか誇らしいですね」

——企業を中心とした専門分野の施設なので、なかなか一般の方が知る機会が少ないと思いますが、こういう施設が

あることで日本の「ものづくり」が支えられているんですね。

「本場にそうですよ。縁の下の力持ち的な。僕らにしても車券の売り上げの一部が補助事業として色々なところに使われているのは知っていますが、それこそ検診車くらいしか思い浮かばなくて。だから今回見学させてもらえるということと、結構ワクワクして来ました(笑)」

——現在の高知支部の雰囲気を見せてください。

「高知支部は今ちょうど50人くらいかな。本場にいい雰囲気ですよ。集まる時はみんな競輪場で一緒に練習して。若い子はよく練習しますしね。ベテランはちょっと息なんですけど(笑)、まあ若手がもがくとなったらベテランも後ろについて。若手も結構育ってきていて、今まで高知はアマチュアが育たないところだった

んですけど、99期も5人くらい出てきて。四国には野球の独立リーグがあるんですけど、高知はファイティングドッグスという球団があつて、そこから競輪選手になりたいと入つて来た宮崎一彰というのが99期にいますよ。巨人から西武に行つて、最後にファイティングドッグスという経歴だつたかな。それともう一人、ファイティングドッグスから今、競輪学校に入っている有望株もいますよ」

——来年2月には東西王座戦が高知で開催されますが、今後の高知支部の目標や望むことなどはありますか。

「僕はもう今のままでいいくらいなんですけど(笑)。そのくらい今、本場に雰囲気がいいんですよ。まあ、若い子で特別競輪に行けるような子をもっと育てたいというか、送り出したいというのはありますね。今は佐々木則幸さんと西村正彦くんくらいになるんで」

——最後にファンの皆さんにメッセージをお願いします。

「高知の選手はみんな『いごっそう』なんです。頑固とか一本気みたいな意味なんですけど。だからレースもちょうど単調になりがちかもしれないですけど、若い子たちはみんな練習も頑張っていますので、ベテラン共々応援よろしくお願いします」